

東京都アルコール健康障害対策推進計画の改定について

＜医療体制に関する意見＞

- SBIRTSについて、東京都の事業にSBIRTSの名前を入れていただくような形で、具体的に東京都も後押ししていることが示されるとよい。
- アルコール依存症の予備軍のような人たちに対して、内科や産業医の先生などがAuditを使いながら介入していくような仕組みが大事で、その方向での取組の拡充は意味があると考える。
- 岡山県や広島県など、アルコール健康障害サポート医制度を導入している県があるので、そういった他県の事例も参考にしてはどうか。
- 精神科クリニックが内科等の一般診療科と専門病院の間を担うような形になるといい。軽度のアルコール依存の問題はクリニックで診て、症状が重くなった場合などに専門の病院で診てもらえるような経路があるといい。

＜相談支援に関する意見＞

- 依存症患者のご家族は本当に大変なので、ヤングケアラーに焦点を当てすぎず、ぜひ家族支援をもう少し広くやっていただきたい。
- 保健所に電話したり出向いたりするのはハードルが高いので、LINE相談やネットで相談を受けるといった取り組みにもう少し力を入れができるといい。
- 15歳から22歳くらいまでの若い女性のアルコール問題の相談件数が増えている印象がある。思春期外来など子供がつながりやすい医療機関での治療や、依存症に関する知識・相談機関の情報を若いうちに知ることができることが大切。

<普及啓発に関する意見>

- 軽度のアルコールの問題を持った人が相談できる場所などがしっかりアナウンスできるとよい。YouTubeでCMを流すとかいうことができると入口が少し広がるのでは。
- インスタグラムのショート画像、短い動画で広報をすることで10代、20代の相談件数が増加したことがある。若い子が今一番見ているものに合わせて発信していく工夫が必要。大人から聞くよりも、友達やSNSでつながった人からの情報の入り方だと相談しやすいのではないかと思う。
- 若い世代で使われているチャットボットなど、新しい媒体をどういうふうに使っていくかということが重要と思う。

<関係機関の連携に関する意見>

- 地域包括支援センターや訪問看護など、様々な地域の支援者を支援する体制、あるいは教育する体制があったらいい。
- 飲酒運転については、飲酒運転の講習を受けるような人に対しては、必ずアルコールの専門医療機関を受診するというような仕組みをぜひ入れてもらいたい。
- 健康診断で繰り返し引っこかるような人や、一般科でお酒の飲みすぎで体を壊して受診したような人を、きちんと専門の病院に紹介してつながるようにしてほしい。

＜新型コロナの影響に関する意見＞

- コロナ禍では、リモートワークで在宅時間が長くなった夫が妻の飲酒の問題を発見しやすくなっただことで相談件数が増えたことがあった。逆に、男性が家で飲む時間が増えて家族関係が悪化していろんな問題に発展することが増えているという話も聞いた。コロナの流行が下火になり、家飲みに関連する相談内容は減少してきているように思う。
- コロナの流行を契機として、支援の仕方が少し変化した、Webなどを活用して支援の技術が広がったという印象がある。そういったポジティブな変化をしっかり継続していくといい。
- 職場でのアルコールの強制が減ってきた一方で、街飲みや飲み歩きといった、街の中でのアルコールとの付き合い方の規範が少し緩くなった印象がある。